

2010 年度第 1 回番組審議会議事録

1. 開催日時 2010 年 6 月 1 日 (火) 17:30~18:30

2. 開催場所 弊社会議室

3. 委員の出席

3-1. 委員総数 8 名

3-2. 出席委員 5 名 平川愛恵・萩尾利雄・高木邦子・山本幸男・木辻清子

3-3. 欠席委員 3 名 正岡健二・為岡務・西修

補：放送事業者側出席者 金千秋・平野由美子

4. 議事

4-1. 委員就任承諾へのお礼

4-2. 各委員の紹介

4-3. 今年度委員長の選出 平川愛恵氏を選出

4-4. 今年度の委員会開催日程について各委員のご都合のよい曜日を検討

4-5. 番組審議

第 1 回審議番組「聴いてほしいの子どもの気持ち」

5 月 23 日(日) 17:45~18:00 放送

5 月 29 日(土) 17:00~17:15 再放送

聞き手：南ユカリ

話し手：伊藤 篤 (神戸大学大学院 人間発達環境学研究会 教授)

2010 年 4 月から始まった新番組で、毎週日曜日 17:45~18:00 放送(再放送は土曜日 17:00~17:15)。学童保育の指導員とその保護者を中心に結成された「チャイルドサポートバンク」が番組を制作。医療機関、子育て支援施設等の多彩な専門家の方々にお話をお聞きし、子どもに関わる様々な問題と向き合い、子どもの発するシグナルや気持ちに気づいていくための情報番組。

5. 議事の概要

5-1. 番組の基本コンセプトの説明後、審議を行う。

6. 審議内容

6-1. 欠席者の審議紹介

【正岡健二委員】

- ・ 全体を通して聞き取りやすく、質の高さと安定した番組作りに感心した。
- ・ 聞き手が常に役割に徹して話を引き出しており、質問内容もよく整理されていた。
- ・ ラジオの特性を活かした番組作りになっていた。導入部とラストに挿入される子どもたちのメッセージは番組を引き締める効果があり、また、インタビュー中にバックに子どもの声が聞こえ、臨場感があり微笑ましい雰囲気であった。

【為岡務委員】

- ・ インタビューのやり取りは聞きやすかったが、音量が少し小さく感じられた。
- ・ 子どもをお持ちの方は興味が沸くと思われる内容であった。

6-2. 出席者の審議

【萩尾利雄委員】

- ・ タイトルから受けるイメージと内容が違う。
- ・ 子どもの声は、いったいどこでどう発せられているのか、実際に声を拾ったらどうか。番組にはなりにくいとは思いますが、タイトルからはそちらを期待する。

【木辻清子委員】

- ・ 丁寧な話し方で聞き取りやすく内容もよく分かった

【高木邦子委員】

- ・ 話し手の口調がよかった。
- ・ 今は教師でさえも容易に児童生徒を注意することができない。親への再教育が必要なほど学校現場に憂いを感じる。小さい頃から社会性を身に付けさせ、子どもの成長をサポートする場がもっと身近なところに必要性である。

【山本幸男委員】

- ・ オープニングとエンディングに比べインタビューの音量が低かった。
- ・ 子どもの声がバックに聞こえたのが印象的。

【平川愛恵委員長】

- ・ 学校側と行政機関の連携だけでは不十分な部分を補う役割を担う施設の存在を知った。
- ・ 内容はよく理解できたが、話し手が少し無愛想に感じられた。

【放送事業者側出席者：金千秋】

- ・ 萩尾委員がおっしゃるように、子ども自身の考え、子どもの声を聞くことができる番組を期待していたが実際は少し違う作りになっているのではということに関しては、別の方からも意見をいただいた。
- ・ 発達障害等うまく自分の気持ちを伝えられない子どもたちの意見を聞くことは、やはりかなり難しいものである。
- ・ この番組を継続すること、また、インターネット上でのブログでの配信など今後の展開に期待してほしい。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置

- ・ 担当者に連絡

8. 審議内容の公表について

8-1. 公表内容 議事の内容

8-2. 公表方法

8-2-1. 自社放送 ・・2010年7月3日 12:30～12:40 放送

8-2-2. 議事録の設置

8-2-3. ホームページに掲載

以上